

<川越市>

政務活動費の不正受給疑惑から未だに逃げたまま！

自らが属する自民党内の連帯など意にも介さず、

父親からの権力のもらい受けに腐心し、「反党行為」を平然と行った

中野英幸埼玉県議会議員に、政治家を続ける資格は一切ない！

■政務活動費不正受給疑惑

昨年、本紙では埼玉県議会議員の中野英幸氏の政務活動費をめぐる疑惑を特報で報じた。http://www.gyouseinews.com/p2_1_kawagoeshi/p2_1_kawagoeshi.html#kawagoe37

昨年7月には、所属を同じくする自民党県議団の一員であった沢田力氏が、領収書の偽造などを行い、政務活動費約545万円を不正受給していたことが発覚。沢田氏は、これを返還し議員を辞職した。中野氏も同じく政務活動費に対する不正を行っているのではないかという疑惑は、本紙の独自取材ルートから寄せられていた。

既報の通り中野氏は、本紙が送達した公開質問書に対して、昨年10月28日にFAXで、また同一文書を翌29日に郵送で、釈明だらけの開き直りそのものといってもよい「回答らしきもの」を送付してきた。差出人は、いずれも「中野英幸事務所」名義であり、その意味では政治家としての中野氏本人からは、未だになんらの回答もないままである。

県議としての職責も誠意の欠片もみられない態度としか言いようがないが、中野氏が籍を置く自民党県議団も、いまだに同氏の政務活動費をめぐる疑惑に対して、なにも動きを見せていない。「自民党県議団が中野県議を擁護しているのか？」という疑念が浮かんだが、本紙が新たに入手した情報によれば、擁護どころか自民党県議団も中野英幸氏には怒り心頭で、事実上「誰も相手にしていない状況」だという。この間の事情を追ってみた。

■党内をかき乱した中野英幸氏の国政出馬騒動

「中野英幸県議が衆院選で埼玉七区から出馬する」…… そんな寝耳に水の知らせが、報じられたのは昨年9月22日のことだ。いわゆる第4次安倍内閣の組閣に至った第48回衆議院議員総選挙、つまり国政選挙に、現職県議の中野氏が出馬するという一報だった。この日の『読売新聞』は次のように報じた。

『中野氏は読売新聞社からの取材に対し「色々な人に相談している段階」と述べるにとどめたが、既に県議会関係者に立候補の意向を伝えた。』（読売新聞 2017年9月22日付）

『埼玉新聞』は更に詳しい事情として、自民党川越支部役員会が中野氏に対して「代議士を地元（川越）から出したい。国政で実力を発揮して欲しい」と出馬を要請した旨を伝えている。自民党川越支部が、中野氏に国政出馬を要請したということは、当然ながら母体である自民党県連が、それを容認したということになる。

しかし、中野氏が出馬表明した埼玉7区には、自民党所属の現職衆議院議員・神山佐市氏がいる。「自民党県連は、まさか神山氏を切り捨てて、中野氏を立てるのか？」県内外の自民党関係者やマスコミも、中野氏出馬の第一報に首をかしげるばかりだった。しかし、これらマスコミの報道に仰天した人物がいた。自民党県連の鈴木聖二幹事長である。

『埼玉新聞』の報道で、鈴木氏は「中野氏からは正式な話は何も聞いていない。筋論としては現職（神山氏）を公認するのがルールで、粛々と手続きを進めていく」と述べている。

神山佐市氏はすでに埼玉7区での続投を予定し、選挙戦の準備に追われていた最中、中野氏の出馬表明は、自民党埼玉県連史でも前代未聞の個人プレーであった。

当然、新聞各紙は「自民の分裂選挙」と報じた。中野氏の暴走は、自民党それ自体への不信感を招いたも同然で、当の自民党関係者も「なぜ、突然、分裂選挙を始めようとするのか、理解に苦しむ」と混乱に苛立ちを隠せなかった。

この混乱は、出馬表明から約1週間後に中野氏自身が出馬を取り下げた2017年9月29日に呆気なく幕を下ろす。

『衆院埼玉7区から自民党公認での立候補を目指していた中野英幸県議（56）は29日、川越市内で開かれた後援会の役員会で立候補を断念することを正式に表明した。自民党は28日、7区の公認候補に前職の神山佐市氏（63）を選んだ。』

（毎日新聞 2017年9月30日付）

しかし、ことは選挙戦を前にした自民党の党利党略上の混乱に留まらない。そもそも県議の任期中にある中野氏が、その職責を放り出して国政に臨むこと自体、政治家として中野氏を支援した有権者を裏切る由々しき問題なのである。いったい、この狂奔劇の裏になにがあったのか？ 本紙は驚くべき情報を入手した。

権力欲に突っ走る親子鷹！ 父・中野清氏（元衆議院議員）が、

ドラ息子・英幸氏を引率し、自民党「二階俊博幹事長に出馬」を陳情？

中野氏の出馬に関して、自民党県連関係者は、本紙の取材に次のように語った。

「新聞では、川越支部からの要請とは書かれていた。ところが、県連に対して中野氏の出馬の打診は一言もなかった。その上で、漏れ聞こえてきたのが……中野氏が父親と共に、東京の衆議院会館で二階俊博幹事長と会っていたという噂だったので」中野氏の父である中野清氏は、元衆議院議員。国政では4期に渡って議員を務めたものの、陣笠代議士（大物政治家の法案成立の際の挙手要員を意味する）ともいわれ、政治的な功績はほぼ皆無に等しいとは地元世論の評価である。

しかし、中野清氏は政治家の名声に利して、実家の家業であった和菓子屋を「くらづくり本舗」の名称で、県内各地に多数の支店を出すに至った商売上手な人物である。そんな父親に対して、息子の英幸氏はといえば、川越市周辺では様々な噂が飛び交う問題児。「ドラ息子」とさえ言う市民もいる始末で、「県会議員でいられるのは、親父の清氏が生きているうちだけだろう」というのが地元の評価だ。

結束を欠いた自民党埼玉県連「纏まりのない(自)県連」と

県民に嘲られた原因は、中野親子の奸策……

反党行為によるものだった！……ケジメを付けよ自民党埼玉県連。

そんな中野親子が二階幹事長を訪問したと聞いて、自民党県連事務局や議員らには問い合わせが殺到し、当地の政局は混乱を招いた。

「二階幹事長といえば、安倍首相の側近。対して神山氏が埼玉県内では唯一の石破派閥の国会議員です。これは、安倍首相による露骨な石破潰しなのかと、驚きましたよ」と地元有権者の声。「自民党は結束を欠いているね」「自民党はどうした。纏まりがないね」との声が多く聞かれた。

だが、無論、安倍首相による石破潰しではなかった。前述の『埼玉新聞』の報道にあるように、中野氏側から県連には、全く打診がなかったのである。勿論、川越支部からも同様だ。本来、出馬を表明するならば、まずは党内の下から順に上申されていくのが政界の基本中の基本だ。

それを、いきなり二階氏を訪ねたというのだから、中野親子はなり振り構わず自民党に対する反党行為に走ったことになる。中野親子に舐められたのは、自民党埼玉県連である。中野親子の行為は、うがって見れば反党どころか、反自民勢力の意を受けて、内部攪乱を狙ったスパイ工作にも等しい、許されざる愚行であり、県議会で共に活動してきた仲間の議員たちをも裏切る行為である。

これは単に政党に対する反逆ではなく、中野氏を通じて自民党に票を投じた有権者をも平然と裏切る言動だ。その後、出馬の意思を取り下げるまで、中野氏から県連に対して一度も連絡はなかったという。自民党埼玉県連は、奸策を弄した中野英幸県議にケジメを付けねばなるまい。

■「頭の中が“あんこ、で出来ている……」 県連幹部からも完全に見限られた中野親子

中野氏の自民党に対する反党行為に、関係者は今でも怒りを顕わにする。

「神山氏が続投を表明している以上、もし中野氏から出馬の打診が県連にあったとしても話を聞く気持ちすらなかった。とはいえ、選挙前の大切な時期に選挙区を混乱させた罪は重い。県連は、ただでさえ豊田真由子（「このハゲ」暴言で失職）問題で戦々恐々としていた。正直、ふざけるな!! と思っておりますよ」

県連関係者によれば、出馬表明を取り下げたため中野氏に対する具体的な処分は考えてはいないという。それでも、怒りが収まらない関係者は多い。

「そもそも、中野親子から出馬の相談を受けた二階氏ですら、たしなめたと聞いています。親子揃って、評判は地に落ちましたよ」

更に噂が耳に入る以外、最後まで中野氏から出馬の話聞くことのなかった県連幹部は、こんなエピソードを漏らした。

「私の元に、中野清氏からの留守電が入っていたんです。その内容が“いろいろ、お騒がせしました！中野の父です！団長さん！”というものです。要するに私を県議団長と間違えて電話して、留守電にまでメッセージを残したわけです」

そう、実はこの1本の間違い電話によって、中野英幸氏の出馬をめぐる工作は、すべて清氏の目論見だったことが露呈したのである。つまり、中野親子の自爆である。この電話の後、県連幹部は自分のところにも謝罪の電話があるのかと待ち構えていたが、未だに挨拶の一言もないという。

「あまりにも抜け作…実家が和菓子屋だから頭の中が、あんこで出来ているのではないですかね」こんな愚か者と、今後も県議会で顔を合わせなくてはならない県連幹部は、頭を抱えていた。

■市民無視、市民不在の中野親子、権力継承への執着

もはや同志であるはずの自民党内でも、信用を失った中野英幸氏。選挙区の有権者たちにも、その実態は次第に明らかになりつつある。

昨年 11 月の選挙直後、狭山市民オンブズマンの田中寿夫氏が、中野英幸事務所職員の雇用実態を調査すべく、中野氏の事務所を訪ねた。

中野氏の事務所があるのは、生家の和菓子屋「くらづくり本舗」の本社 2 階だ。そこは、「中野英幸県政事務所」であり「中野英幸後援会事務所」、「自民党川越支部」、「中野清事務所」も兼ねている。当然、市民や県民など有権者に開かれた場所ではなければならない。ところが、田中氏が訪問の主旨を告げたところ、対応した中野事務所の職員は「玄関に入ったら通報する」と、訪問を拒否したのである。

県民の血税と有権者の信頼・支援を得て活動しているはずの県会議員が、訪問した県民に対して警察への通報をちらつかせ恫喝する。このような反市民社会的な人物が、なぜ未だに県議の座にいられるのか？

しかも訪問した田中氏は、本紙既報の中野英幸県議の政務活動費不正受給の調査に来たのだ。それを門前払いとは、まるで「凶星なので調べに来ないでくれ」と認めているも同然ではないか？

違うというならば、中野英幸氏は、今からでも疑惑に対して明確な回答を表明すべきが、政治家の義務ではないか。最早、このままでは父親の後を継いで国政へ進出する機もないどころか、県議としての地位も危ういと思っているのか、中野氏は「くらづくり本舗」の広告でも「社長」として積極的に登場している。

これもまた、巧妙な政治活動と言えるだろう。

ところが、社長として登場する中野英幸氏だが「くらづくり本舗」のホームページを見ると、社長は英幸氏の母・中野ソノ子氏と記されている。

同社の登記簿謄本を確認したところ 2017 年 8 月に、中野英幸氏が代表取締役就任している。将来の選挙に向けて中野氏に社長の椅子を委譲したのは良いが、ホームページでの情報更新はすっかり忘れているのだろうか。

結局は、中野清氏の「権力を息子に継がせたい」という老醜だけが空転しているのではなかろうか。その「中野権力」も、いまやどこにも存在はしない。

改めて、中野英幸氏には政務活動費に関する問題について有権者に説明すると同時に、その疑惑を招来した不祥事と、自民党に対する反党行為を理由に、即時の議員辞職を求めておく。